パメラ・ロバーツさんに聞く

中学校での授業のようす

パメラ・ロバーツさんは、イギリスの出身で2000年度より伊予市内の小・中学校における英語指導助手として活躍されています。

Q 伊予市の子どもの印象はどうですか。

A すばらしい！親しみやすく、何でも楽しくやろうとします。そして、たいへんまじめです。

Q 伊予市の大人の印象はどうですか。

A 親切でいろいろと助けてくれます。いつも笑顔で接してくれるので、私を受け入れてくれていると感じて、安心できます。

Q 日本人とイギリス人の人権意識のちがいを感じたことがありますか。

A 私は、日本人もイギリス人も困難な立場にある人々のことを真剣に考え、助けたいと思っているのではないかと思っています。

お互いの文化が違っているので、人権に対する意識も異なっています。しかし、日本人もイギリス人も世界中の人々がよりよく生きていけることを願っていると思います。

中国からの実習生に聞く

彌満仁㈱実習生、王さん他の皆さん

Q 伊予市の印象はどうですか？

A 日本のみなさんはとても静かです。周囲から話し声が聞こえてこないのが不思議です。普通にしゃべっているつもりでも、「けんかしてるの？」と誤解されることがありました。大きな声でしゃべったり、笑ったりするのは中国ではあたりまえのことなんですけど…。家ではなるべく静かに話すようにしていますが、中国の家族に電話をしているとついつい大声になってしまいます。

Q 伊予市に住んでいて困ったことはありますか？

A 病気になって入院したとき、自分の体の具合をお医者さんにうまく説明できなくて困りました。でも、看護師さんはとても親切にしてくれました。また、歯医者さんに行ったときは、「今から麻酔の注射をしますね。」と中国語で書いたカードを見せてもらいながら治療を受けたので、とても安心しました。

Q 伊予市に住んでいてうれしかったことはなんですか？

A 近所の自転車屋さんなど地域の人たちがあいさつをしてくれることです。小学生の中には、「ニイハオ」と中国語であいさつをしてくれる子もいます。みなさんとても優しくて、スーパーでおつりがまちがっていたことを伝えると、店員さんは親切に対応してくれました。住吉祭りもとても楽しかったです。地域の行事にもお誘いがあれば参加したいと思っています。

同和教育シリーズ　No.10

しあわせ

～外国人の人権問題～

2002年　10月発行

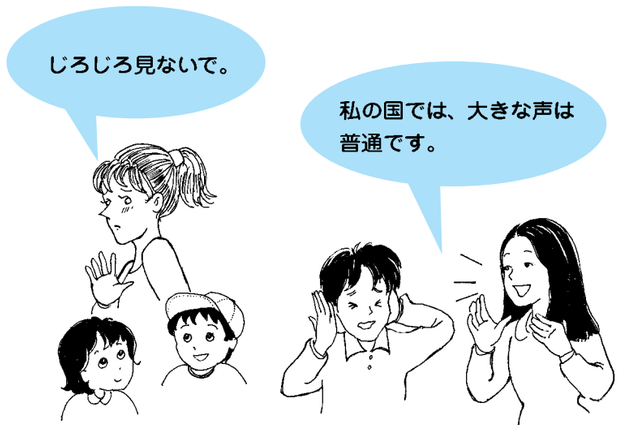
伊予市教育委員会

愛媛県同和教育協議会伊予市支部

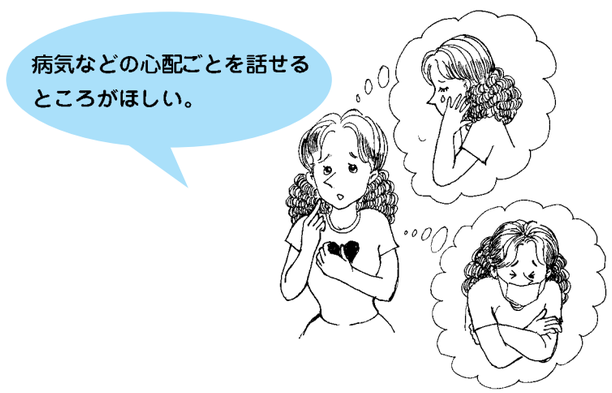
在日外国人の願っているもの

日本の生活習慣を理解したい

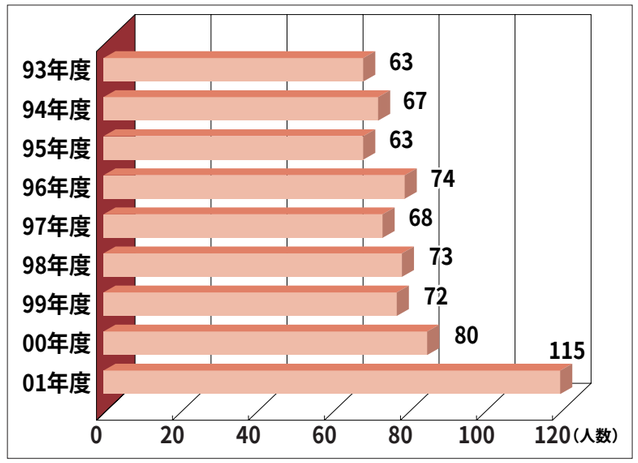
私たちの生活習慣を理解してほしい



困ったときに相談できる身近な窓口がほしい



年々増える外国人



伊予市在住外国人の人口推移

県内に在住する外国人は、平成11年末で、5,447人であり、10年間で1.9倍と急増し、その国籍は65か国にも及んでいます。

また伊予市においては、現在、115人の外国人が居住しています。

外国人であることから生じる様々な摩擦や問題が指摘されており、平成7年度に県が実施した「日常生活に関する在県外国人の意識」調査では、半数以上の人が学校や職場あるいは日常生活において、外国人であることによる差別や偏見を感じたことが「ある」と回答しています。

このような問題をなくすためには、多様な文化、習慣、価値観等の違いを正しく認識した上で、国籍や民族を問わずすべての人が同じ人間として尊重し合い、共生できる地域社会の実現に努めることが必要です。

伊予市の人々は人類愛に満ちていた

戦場で日本人・ロシア人の分けへだてなく救護する看護兵

伊豫岡八幡神社日露戦争絵馬

戦争そのものが最大の人権侵害といっても過言ではありません。しかし、そのような戦争（日露戦争）の最中、ロシア人捕虜24名らが、郡中町の彩浜館に招かれました。彩浜館では、茶菓のもてなしを受け、書画・盆栽・生け花を観賞し、物産展や五色浜で催された弓術大会を見学したと記録にあります。捕虜を手厚く遇し、細かい気配りがされたのです。

現在、伊豫岡八幡神社に残る絵馬には、戦場にあって、日本人兵士が負傷したロシア人兵士を救護する姿が描かれています。ここには兵士たちが自己のなかの人間性を失うことなく、ロシア負傷兵に人類愛を貫いてきたことが今に伝えられています。また、これを縁に現在もロシアと伊予市の交流は続いています。

「人権の世紀」といわれる現在においても外国人に対する差別問題が全国で存在する中、わたしたち伊予市民にとって先人のとった行動は誇れるものだと思います。このことをわたしたちが受け継ぎ、更に、子どもたちに引き継いでいきたいものです。